

## 単元 「かけ算(2)」(第2学年)

### (1) 提案の概要

3年生以上226名を対象に行った乗法理解に関する実態調査を踏まえ2年「かけ算」の単元構成並びに指導形態等を提案する。

まず一つに、乗法の意味理解を九九指導とは切り離して考える。

九九指導でも、乗法の意味を深めていくが、九九を覚えることはかけ算の答えをいつでもすぐに出すためという立場で指導したい。そして、九九指導以前に、かけ算の意味理解を十分に図り、かけ算の答えを自力で導けるようにしておくことが大切だと考える。

そこで、今まで3,4時間充ててきた意味理解に7,8時間充てた。

このことは、後の九九指導のみならず、小数・分数の乗除の意味理解や単位量の考え方につながると考える。



### (2) 討議の概要

- ・ つまずきの把握と対処はどのようにしたのか。

「式に表す」から「式を読む」活動への転換を図り、個々のつまずきに合った支援を与えた。

まず、身の回りで同数ずつある物を見つけさせる。次に、教師の用意した均等分布と不均等分布の場面を「式に表す」。また、「式を読み」、それに合うお話を作る。式に表すのは理解できていても、 $5 \times 6$ という式を読むと5個と6個のブロックを置く児童も見られたが、式の意味を問い、言わせることで、間違いに気づき訂正できた。

- ・ 少人数指導において各チームの指導内容・指導方法はどのように違うのか。

チームは児童の自己選択である。「自分でチーム」は自力解決を願う児童、「みんなでチーム」は友達と一緒に話し合い活動しながら解決したいと願う児童である。したがって、「自分でチーム」の担当教師は、個々の学習状況を的確に把握し、評価と支援を繰り返す。「みんなでチーム」の担当教師は具体物や半具体物等の支援の手だてを多く準備し、具体操作を経験させながら理解を深めるよう配慮した。

- ・ 乗法概念獲得への手だてにはどのようなものがあるのか。

生活の中から乗法の場面を探させる。

均等分布と不均等分布を対比させる。

「式に表す」と「式を読む」の両面を重視する。

かけ算を子どもと創る課程を大切に作る。

単位量あたりの考え方を基にする。

積を具体物等を用いて自力で求めさせる。

### (3) ご指導の概要

乗法の指導においても、できあがったものとして教師が教え込み暗記させるものではなく、子どもが構成していく中で数学的な考え方を育成することが大切である。ここでの数学的な考え方には、累加の考えや記号化、乗数を増やしてみる発展的な考え方、類推・帰納・演繹といった問題解決にかかわる考え方などがある。

文章から数量の関係が読みとれない子どももあろう。概念理解に向けた単元構成や図と結び付けた指導などの工夫が大切である。